



「絶対に生きて無実を証明する」と心に誓った

その後、誹謗中傷に加えて脅迫まがいの書き込みが激化しました。書き込みをしている人たちは本当に僕のことを犯人として憎んでいて、自殺をするまで追い詰めようとしていたんです。その中で僕は、死ぬことよりも、「絶対に生きて無実を証明してみせる」と強く心に誓いました。ここでめいってしまったら彼らの思うツボです。それからは、自分が幸せに生きるための考え方と行動が、相手に対する最大の仕返しになると思って生きてきました。

自由は「何をしてもよい」というわけではない

誹謗中傷で捕まった人たちは皆、「言論の自由」や「表現の自由」といった言葉を使います。でも、自由というのは何をしてもよいというわけではありません。それでは無法と同じなので、私たちには「言論の責任」があると思います。

不適切な投稿は、受け取る本人だけでなく企業にも膨大な損害を与えてしまいます。大手企業であれば株価が下落しますし、小さな飲食店だったらつぶされてしまいます。ところが、不適切な投稿をした側はそれを“正義”だと思ってしているから厄介なんです。

投稿の内容が本当に正しいのか疑ってみる

SNSの投稿を安易に拡散することも危険です。拡散をした人も最初に投稿した人と同じ責任を問われるということを忘れてはなりません。

SNSは自分の考え方に共感するフォロワーと交流することができますが、そこだけの情報に頼っていると見方が偏ってしまう危険性があります。そうならないために、SNSを利用する時は正義の「義」を「疑」という字に置き換えて、投稿の内容が本当に正しいのかどうかを疑ってみることが大切だと思います。

若い世代から加害者を減らすことを考えて

僕は誹謗中傷に遭って以来、ずっと被害者を救う方法を考えてきました。でも、10年前から加害者を減らす方向に考え方が変わり、昨年、弁護士と一緒に「(一社)インターネット・ヒューマンライツ協会」というものを立ち上げました。ここでは、中高生が同世代の学生に向けて、情報モラルや法律を教えるアドバイザーになることを目指しています。大人からの目線ではなく、同世代からの目線であれば、教わる側も素直に聞き入れることができると考えています。今後、中学校や高校にメディアリテラシー部のような活動が生まれ、そのメンバーたちが全国に出向いて、同世代の人たちへインターネット社会に必要なアドバイスをしてくれるようになったらうれしいですね。



スマイリーキクチさんからメッセージ



悩んでいる人に
ちゃんと寄り添って
いますか？

僕がインターネット上で殺人犯にされた時、周囲の人から「そんなの見なければいいんだよ」とか「気にしなければいいんだよ」と言われたことがありました。でも、それは慰めているつもりでも、言われた側にとっては突き放されたのと同じなんです。それよりも、風評被害や誹謗で傷ついている人から相談を受けた時は、まず相談をしてくれたことを喜び、一緒に解決策を考えたり、証拠集めに協力してあげてください。相手の立場になって寄り添い、悩んでいる人を孤独にさせないことが何よりも重要です。

スマイリーキクチ / お笑い芸人

昭和47年東京都足立区生まれの下町育ち。笑顔と穏やかな口調ながら、するどい切り口のトークが特徴。

虚偽の事実によりインターネット上で誹謗中傷を受け、仕事を失った経験を基に、現在はインターネット犯罪の恐怖や被害を防ぐ方法について全国で講演活動をしている。

令和2年に(一社)インターネット・ヒューマンライツ協会を立ち上げ、代表に就任。

著書「突然、僕は殺人犯にされた」(竹書房文庫)。

▶(一社)インターネット・ヒューマンライツ協会 HP
<https://interhumanright.org/>



▲講演の様子